

佐賀市の特徴

- 県庁所在地で人口は約23万人
- 九州北西部のほぼ中央に位置し、福岡県、熊本県、長崎県と隣接
- 福岡市とは、JRで最速35分、高速道路で約1時間の距離
- 都市のくらしやすさ全国第1位
※(株)野村総合研究所「成長都市ランキング(2017年)」
- 佐賀県の地震観測回数(震度3以上)は全国第2位の少なさ(2020~2024年)

など



◎更に南部地域は

- ◆農水産業が盛んで、地域特産品が豊富
- 広大な農地や有明海があり、多くの農作物やノリなどの生産地



JAさが 川副光樹とまと部会 川副中央支所ウェブサイト



佐賀県産業労働部流通・貿易課提供



佐賀県観光連盟提供

◆九州佐賀国際空港が立地

- 羽田、上海、ソウル、台北の東アジアのハブ空港と直結
- 滑走路の延長や平行誘導路の整備などにより、観光客や物流需要の増加に期待

◆有明海沿岸道路の整備

- 熊本県境付近まで開通し、半導体関連企業が集積する熊本・菊陽町に車で約1時間半
- 有明海沿岸道路の整備により、各都市との交流促進や交通アクセスの向上に期待

◆日本最西端の貨物駅(JR鍋島駅)に近接

- 有明海沿岸道路や佐賀唐津道路の整備により、鉄道貨物を利用した物流需要の取込みに期待



佐賀県観光連盟提供



国土交通省九州地方整備局有明海沿岸国道事務所提供

佐賀市南部エリア開発構想

～有明海沿岸道路や九州佐賀国際空港等を活かした地域振興に向けて～

概要版

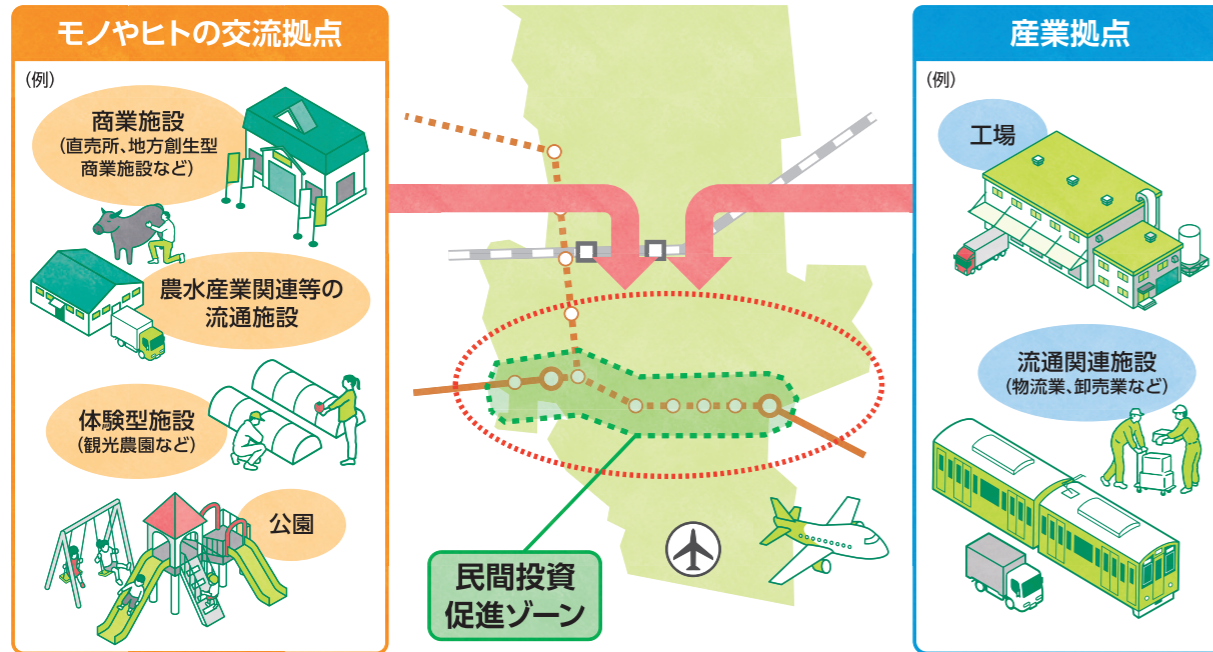


将来像

コンセプト

地域資源や交通インフラを活かし、 持続的に発展する地域拠点

地域特産の農水産物や充実した交通インフラを活かし、南部地域の特性や企業ニーズに応じて、「産業拠点」や「モノやヒトの交流拠点」を形成するとともに、有明海沿岸道路沿線地域への民間投資を促進し、南部地域の発展に繋がっていきます。



注)図表の各施設は例示として記載するものです。

取組の方向性

(1) 産業拠点の形成に向けた取組

民間企業の進出用地を確保し、各種製造工場、流通関連施設等が立地する産業拠点の形成を目指します。

(2) モノやヒトの交流拠点の形成に向けた取組

有明海沿岸道路のICや九州佐賀国際空港に近接した地域において、地域特産品に関連する商業施設や流通施設、体験型施設、公園等を集積させ、近隣都市やインバウンドの需要を取り込み、モノやヒトが交流する拠点の形成を目指します。

(3) 民間投資促進ゾーンの取組

有明海沿岸道路沿いの地域を「民間投資促進ゾーン」と位置付け、優良農地の保全に配慮の上、民間企業の自主的な進出を目指します。

(4) 企業支援の取組

- 1 企業立地支援
- 2 人材確保・育成支援
- 3 脱炭素経営推進支援
- 4 DX・デジタル化支援

(5) 交通インフラ整備の促進に向けた取組

- 1 九州佐賀国際空港の利便性向上に向けた取組
- 2 道路インフラ拡充に向けた取組

(6) 災害時に貢献できる機能の整備に向けた取組

「産業拠点」や「モノやヒトの交流拠点」の形成に当たっては、災害時に貢献できる機能の整備に向け、関係機関や進出企業と連携して取り組んでいきます。

拠点形成の効果

本構想の推進による効果として、「企業進出による働く場の創出・税収増加」、「働く場・交流の場の創出による人口流出の抑制」、「既存産業への経済効果の波及」、「交流人口・関係人口の増加」、「防災力の向上」の5つの効果が期待されます。



ロードマップ

本構想は、有明海沿岸道路や佐賀唐津道路の延伸、九州佐賀国際空港の滑走路延長などの交通インフラの進捗に合わせ、民間の投資意欲を踏まえ、将来像の実現に向けて取組を進めていきます。

